

資料2

第14回 利根大堰周辺の
治水と環境検討会
R7(2025).5.22

利根大堰周辺における 自然環境調査報告

＜R 6 年度調査結果報告とR 7 年度予定について＞



国土交通省 関東地方整備局

利根川上流河川事務所

【目 次】

1. 利根大堰周辺における自然環境調査の概要・・・P2
2. R6年度調査結果報告について・・・・・・・・・・P6
（前回・第13回検討会以降の調査結果）
 - ①R6年度・冬季（鳥類）・・・・・・・・・・P7
 - ②R6年度・早春季（XXXXXXXXXX産卵状況）
・・・・・・・・・・P14
3. R7年度調査実施予定について・・・・・・・・・・P20

1. 利根大堰周辺における自然環境調査の概要

- 利根大堰周辺の自然環境の現況や経年的な変化の把握を目的として、調査対象範囲とする上流地区、下流地区について、動植物(植物、鳥類、両生類・爬虫類・哺乳類、陸上昆虫類、及び水生動物等)の生息・生育状況の調査を実施した。
- なお、円滑な河川における事業推進に資するため、河川整備に当たって注意すべき「希少種」(国・県のレッドリスト掲載種)、「外来種」(特定外来生物や生態系被害防止外来種)、また、整備後の望ましい環境に生息・生育を期待する「注目種」に焦点を当てて調査を行った。

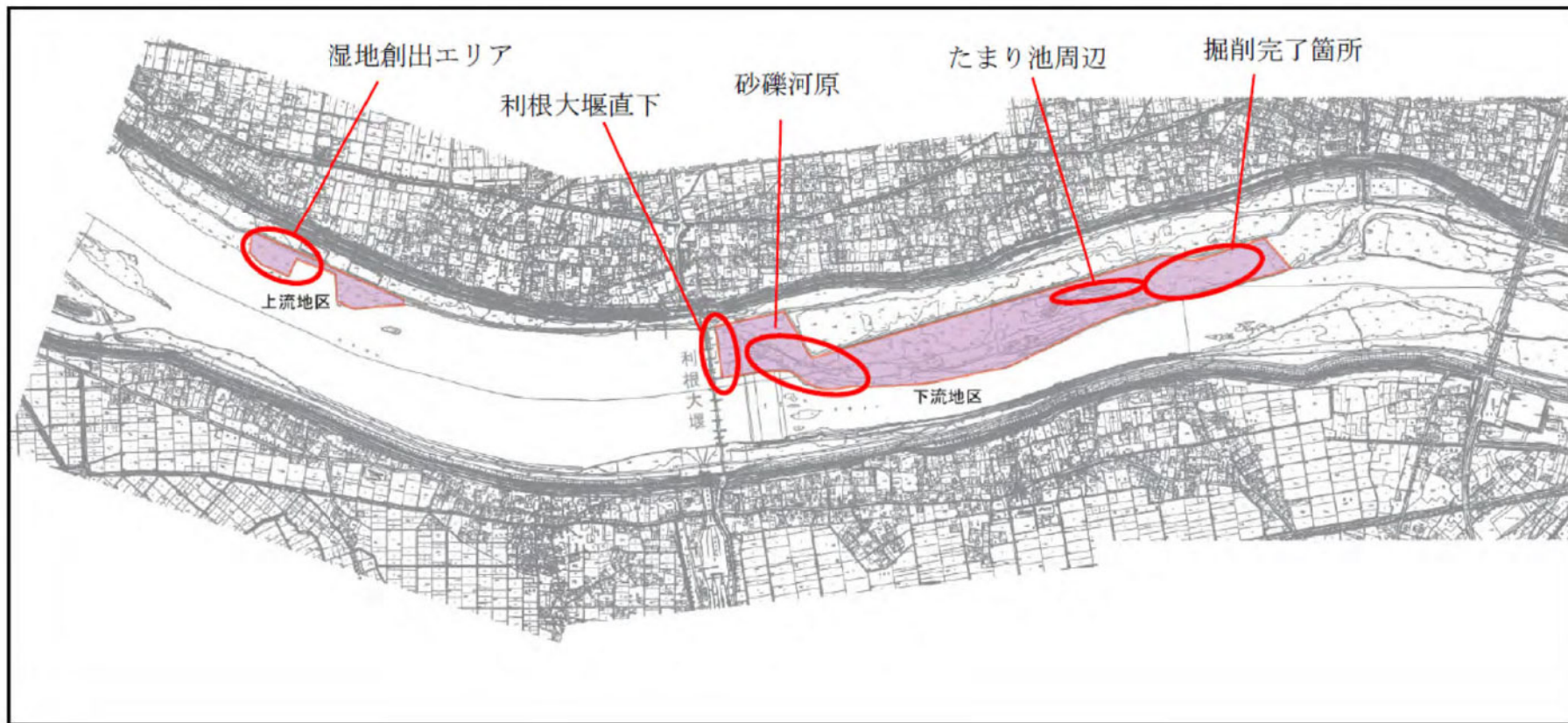
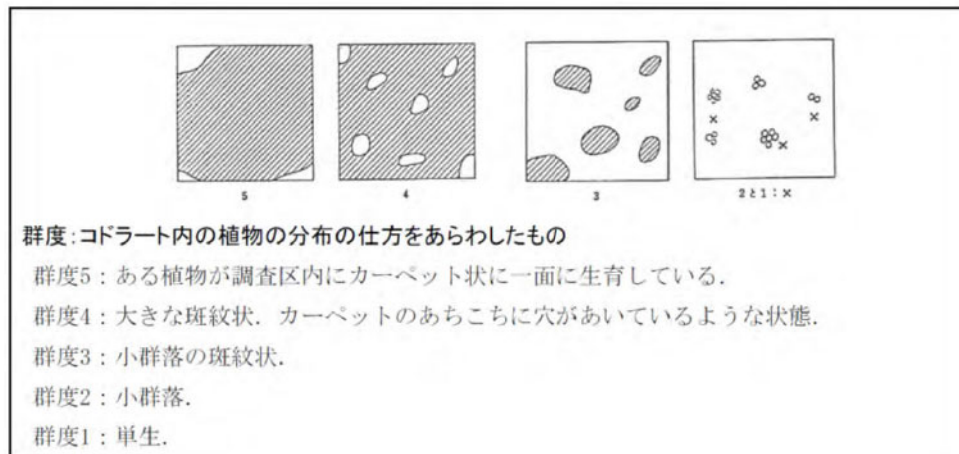


図. 調査地

【調査方法】

①植生図作成及び植物相

調査範囲を踏査し、調査対象種を目視によって確認し、位置・生育状況を記録した。また、確認された群落ごとに群落組成調査を実施し、植生図を作成した。その際、植生区分等は河川水辺の国勢調査の植生図をベースとして、必要に応じて追加・修正を行なった。なお、群落組成調査は、ブラウン-ブランケの植物社会学的手法により実施し、下流上流左岸に共通して出現する群落については、どちらか一方の場所で行った。



②鳥類

環境の異なるさまざまな調査地点でラインセンサス法と定点記録法でその種類と分布状況を調査し、確認された調査対象種の種類と確認位置を記録した。

・ラインセンサス調査

あらかじめ設定しておいたセンサスルート上を歩いて、一定の範囲内に出現する鳥類を姿や鳴き声により識別し、記録した。センサスルートは、環境条件などに応じて適宜変更するが、本調査では利根大堰左岸の調査区域内から自然地及び人為的攪乱地の草地、樹林地、砂礫地を抜粋し、センサスルート長を500mとしたラインを5本設定した。現地では、観察半径25m、歩行速度1.5～2km/hで調査を行った。

・定点観察調査

スポットセンサス法の特徴を加えた定点観察調査を行った。利根大堰左岸の調査区内の管理用道路上に1kmごとに調査箇所（観察定点）を設定し、定点から半径200mの範囲に出現した鳥類を記録した。道路上からでは観察しにくい河川沿いは別に定点を設定し、同じく、定点から半径200mの範囲に出現した鳥類を記録した。



定点観察調査の様子

【調査方法】

③哺乳類・両生類・爬虫類

哺乳類は目視によるほか、水際・草むら等を調査し足跡、糞などの痕跡を調べるフィールドサイン法、罠により捕獲するトラップ法（本調査ではシャーマントラップを使用）、自動撮影カメラなどで調査し、調査対象種の種類と確認位置を記録した。

両生類・爬虫類は、目視やたも網を用いた捕獲による直接観察を行い、確認された調査対象種の種類と確認位置を記録した。この際、石や倒木、落葉の下を可能な限り探査し、個体の発見に努めた。また、早春季に踏査による[REDACTED]の卵塊調査を実施した。また、本調査に併せて水生動物（魚類・甲殻類・貝類等）の生息状況の把握を併せて行った。



シャーマントラップ



自動撮影カメラ



たも網での捕獲

④陸上昆虫類

環境の異なるさまざまな調査地点で任意調査法（スウィーピング法、ビーティング法、石起こし採集等）やベイトトラップ法を実施し、当地に生息する昆虫類の確認を行った。確認した調査対象種は、調査地図上に確認位置を記録した。



スウィーピング法



ベイトトラップ法

【調査対象・調査時期】

調査対象		令和6年度				
		春季※2	夏季	秋季	冬季	早春季
生物調査	①植生図作成調査			10/1-2		
	②植物相			10/1-2		
	③鳥類	5/14-15	7/23-24	10/1-2	1/28	
	④哺乳類・両生類・爬虫類※1	5/14-15	7/23-24	10/1-2		3/10※2
	⑤昆虫類	5/14-15	7/23-24			

※1:哺乳類・両生類・爬虫類に併せて、魚類・甲殻類等が確認された場合は補足的に記録。

※2: 〃の卵塊確認調査を実施。

2. R6年度調査結果報告について

①R6年度・冬季(鳥類)

- ・利根大堰上流左岸
- ・利根大堰下流左岸

②R6年度・早春季(産卵状況)

- ・利根大堰上流左岸:湿地創出エリア
- ・利根大堰下流左岸:利根大堰直下、砂礫地、たまり池、
掘削完了箇所(掘削水路、だるま池、本川水際)

- 「第13回 利根大堰周辺の治水と環境検討会」において、令和6年度秋季までの調査結果は報告済みであるため、本資料は前頁の赤枠で囲った令和6年度冬季、令和6年度早春季の調査結果を記す。

①R6年度・冬季(鳥類)調査の結果

利根大堰上流左岸

令和6年度の春季、夏季、秋季、冬季の調査を合わせて、希少種及び注目種に該当する鳥類は、6目7科9種が確認された。希少種は、群馬県のレッドリストに掲載されているカシラダカ、カンムリカイツブリをはじめ、合計5種が確認された。そのほとんどは、利根川本川に接する岸際での確認であり、利根大堰上流部における貴重な水辺環境となっていることが伺えた。

No	目名	科名	種名	2021年度				2022年度				2023年度				2024年度				区分				
				春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	希少種		外来種		注目種
																				環境省	群馬県	特定外来生物	生態系被害防止外来種	
1	ツル	クイナ	オオバン		●	●	●				●	●		●	●	●	●	●	●					●
2	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ			●					●				●				●		DD			
3			ハジロカイツブリ			●															DD			
4	ペリカン	サギ	アオサギ	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●					●
5			チュウサギ											●				●		NT	VU			●
6			コサギ			●			●	●	●		●	●	●	●	●	●			VU			
7	カッコウ	カッコウ	カッコウ	●				●													VU			
8	チドリ	チドリ	コチドリ									●									DD			
9		カモメ	コアシサシ	●					●			●	●							VU	EN			●
10	タカ	タカ	オオタカ			●	●							●	●				●	NT	NT			●
11	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		●					●	●		●		●	●								●
12	スズメ	ウグイス	ウグイス	●				●	●			●				●	●							●
13		ホオジロ	カシラダカ				●				●				●				●		NT			
合計8目10科13種				4	3	6	4	3	4	3	6	4	4	5	7	5	4	4	5	3	9	0	0	7

希少種カテゴリー区分

○環境省

EX: 絶滅

EW: 野生絶滅

CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類

CR: 絶滅危惧ⅠA類

EN: 絶滅危惧ⅠB

VU: 絶滅危惧Ⅱ類

NT: 準絶滅危惧

DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

○群馬県

EX: 絶滅

EW: 野生絶滅

CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類

CR: 絶滅危惧ⅠA類

EN: 絶滅危惧ⅠB

VU: 絶滅危惧Ⅱ類

NT: 準絶滅危惧

DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

○埼玉県

EX: 絶滅

EW: 野生絶滅

CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類

CR: 絶滅危惧ⅠA類

EN: 絶滅危惧ⅠB

VU: 絶滅危惧Ⅱ類

NT: 準絶滅危惧

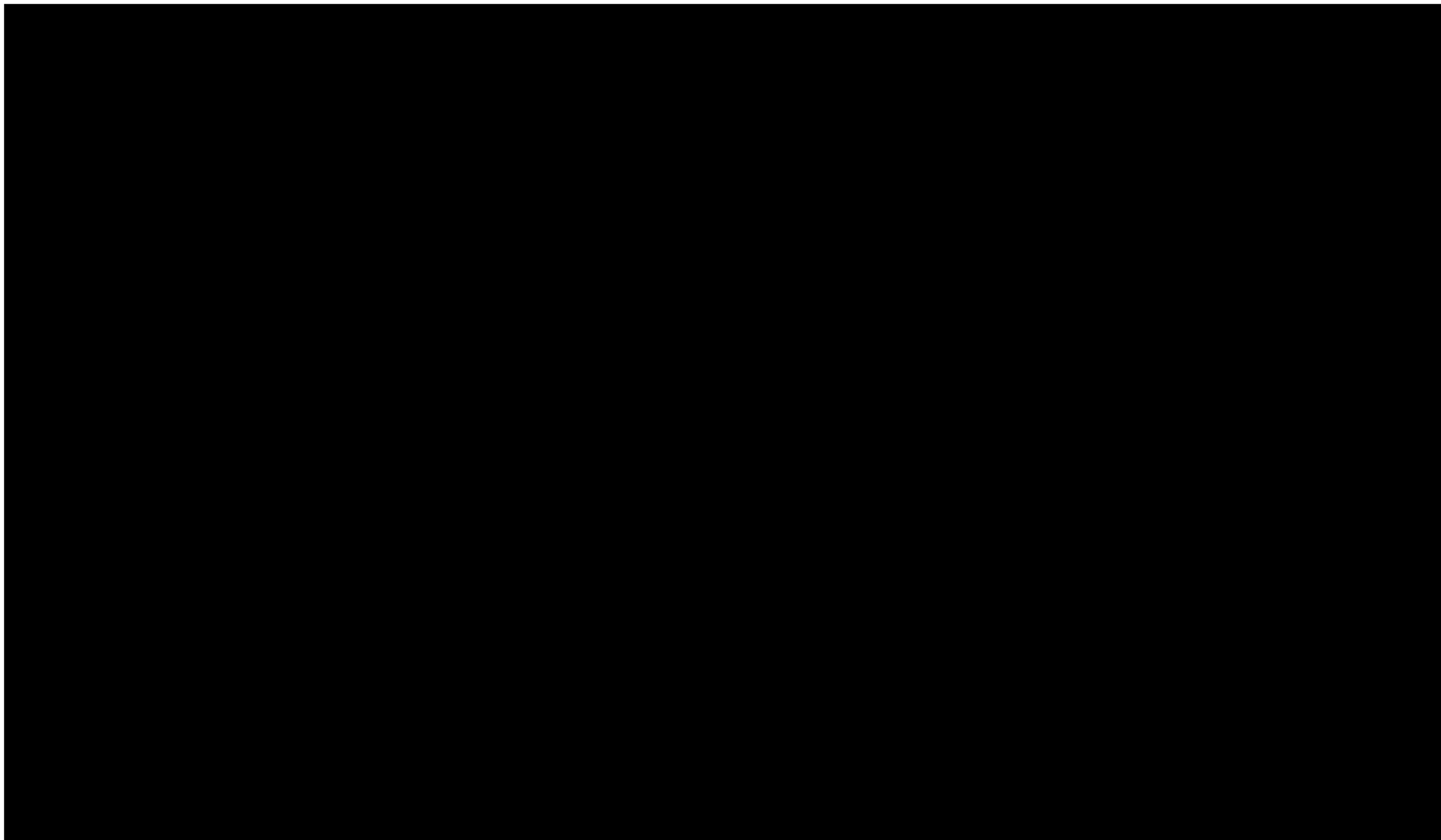
DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

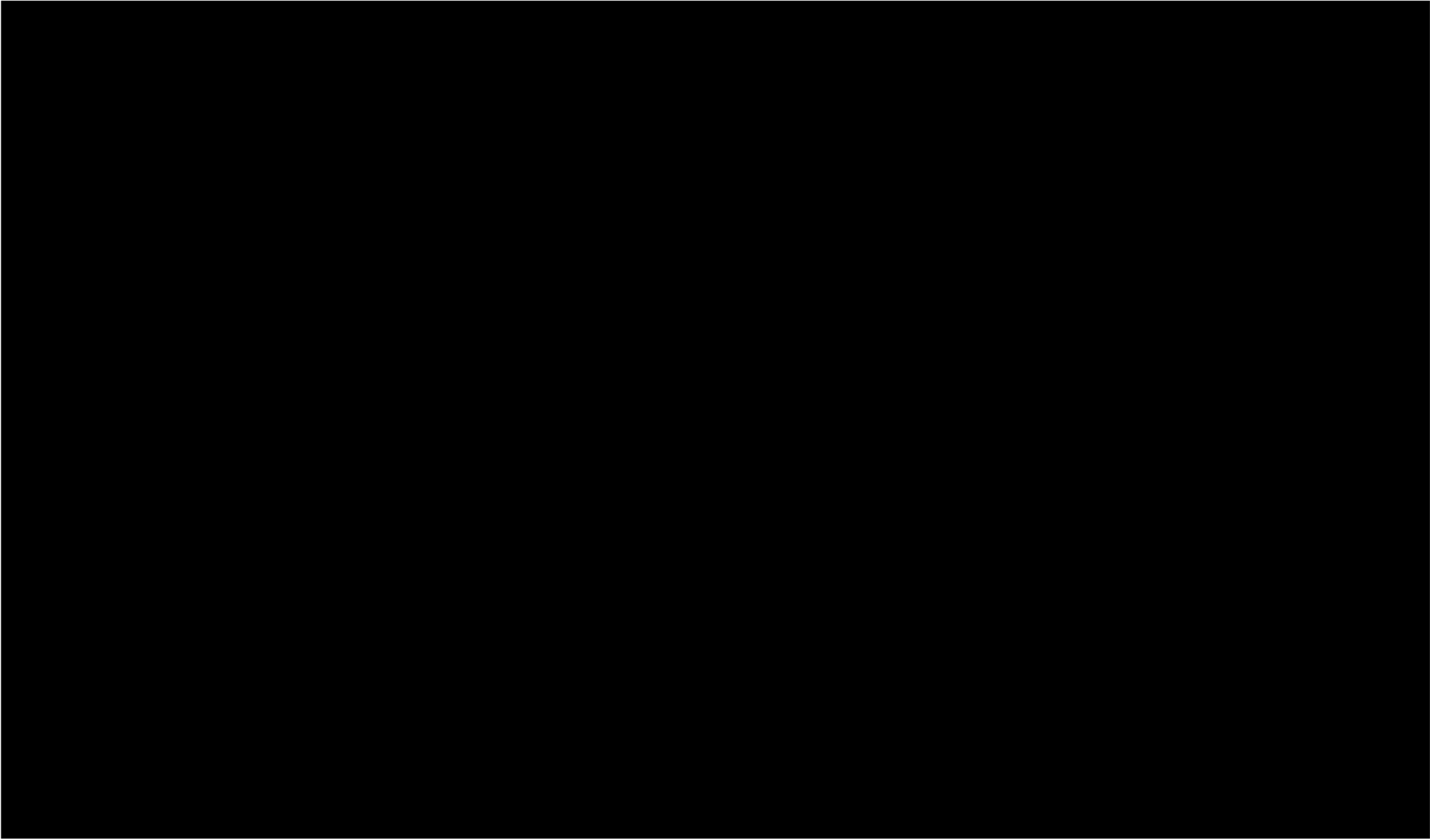
RT: 地帯別危惧



オオタカ（希少種・注目種）



希少種の確認位置



注目種の確認位置

利根大堰下流左岸

令和6年度の春季、夏季、秋季、冬季の調査を合わせて、希少種及び注目種に該当する鳥類は、7目11科18種が確認された。希少種であるホオジロの生息が一年を通して確認されたことから、当該エリアで繁殖していると推測される。

No	目名	科名	種名	2021年度				2022年度				2023年度				2024年度				区分						
				春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	希少種			外来種			注目種
																				環境省	埼玉県		群馬県	特定外来生物	生態系被害防止外来種	
																					全県	中川・加須低地				
1	ツル	クイナ	オオバン				●				●				●			●			NT1（繁殖）	NT1（繁殖）				●
2	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ															●					DD			
3	ペリカン	サギ	アオサギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●								●
4			コサギ	●	●	●	●			●		●	●	●	●	●	●	●			NT2（繁殖）	NT2（繁殖）	VU			
5	カッコウ	カッコウ	カッコウ	●				●				●	●								NT2（繁殖）	NT2（繁殖）	VU			
6	チドリ	チドリ	コチドリ	●				●	●		●	●	●		●								DD			
7		チドリ	イカルチドリ					●		●								●			NT1（繁殖）		NT			●
8		シギ	イソシギ			●	●	●		●	●		●	●	●		●	●	●		VU（繁殖）	VU（繁殖）	NT			
9		カモメ	コアジサシ	●				●				●				●	●			VU	CR（繁殖）	CR（繁殖）	EN			●
10	フクロウ	フクロウ	コミミズク								●										VU（越冬）	VU（越冬）	DD			
11	タカ	タカ	ミサゴ					●		●	●					●			●	NT			DD			
12			トビ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		DD（繁殖）					
13			チュウヒ															●		EN	EN（越冬）	EN（越冬）	DD			
14			ハイタカ				●													NT	NT2（繁殖・越冬）	VU（越冬）	NT			
15			オオタカ			●				●					●	●				NT	VU（繁殖・越冬）	VU（繁殖・越冬）	NT			●
16			ノスリ			●	●			●	●				●	●		●	●		NT2（繁殖・越冬）	DD（繁殖）	NT2（越冬）			
17	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	●		●	●	●			●			●	●	●	●	●			NT2（繁殖）	NT2（繁殖）				
18	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		●				●	●	●			●	●						RT（繁殖）	LP（繁殖）				●
19	スズメ	ウグイス	ウグイス	●	●			●	●			●	●			●	●				RT（繁殖）					●
20		ヨシキリ	オオヨシキリ	●	●			●	●			●	●			●	●				NT2（繁殖）	NT2（繁殖）				
21		ホオジロ	ホオジロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		RT（繁殖）	NT2（繁殖）				
22			カシラダカ				●				●				●				●				NT			
23		チメドリ	ガビチョウ												●	●	●	●						●		
合計10目15科23種				10	7	8	10	12	7	10	12	8	8	7	11	13	9	8	11	5	17	14	13	1	0	7

希少種カテゴリー区分

○環境省
EX: 絶滅
EW: 野生絶滅
CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類
CR: 絶滅危惧ⅠA類
EN: 絶滅危惧ⅠB
VU: 絶滅危惧Ⅱ類
NT: 準絶滅危惧
DD: 情報不足
LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

○群馬県
EX: 絶滅
EW: 野生絶滅
CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類
CR: 絶滅危惧ⅠA類
EN: 絶滅危惧ⅠB
VU: 絶滅危惧Ⅱ類
NT: 準絶滅危惧
DD: 情報不足
LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

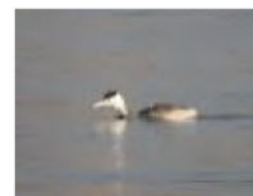
○埼玉県
EX: 絶滅
EW: 野生絶滅
CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類
CR: 絶滅危惧ⅠA類
EN: 絶滅危惧ⅠB
VU: 絶滅危惧Ⅱ類
NT: 準絶滅危惧
DD: 情報不足
LP: 絶滅のおそれのある地域個体群
RT: 地帯別危惧



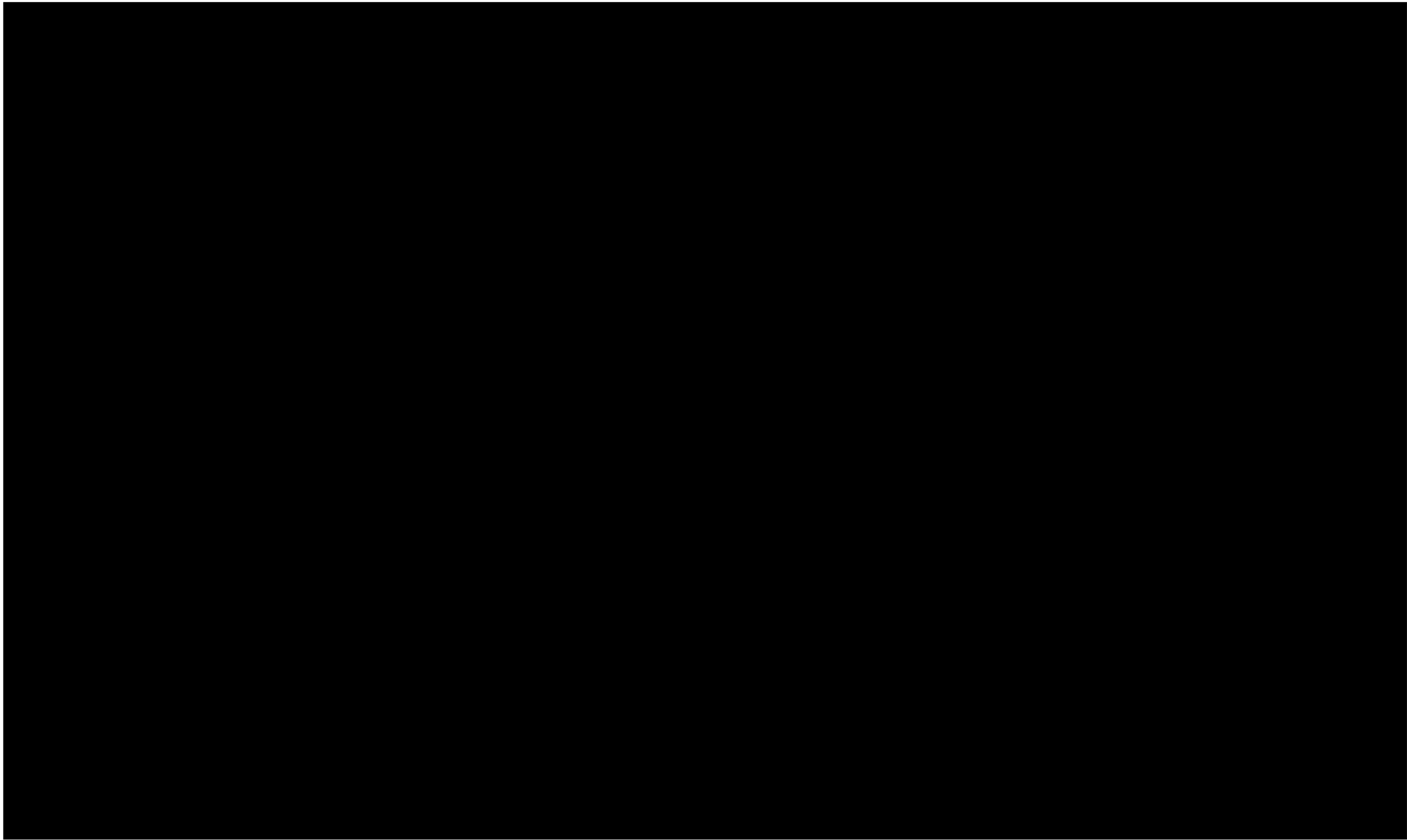
イソシギ



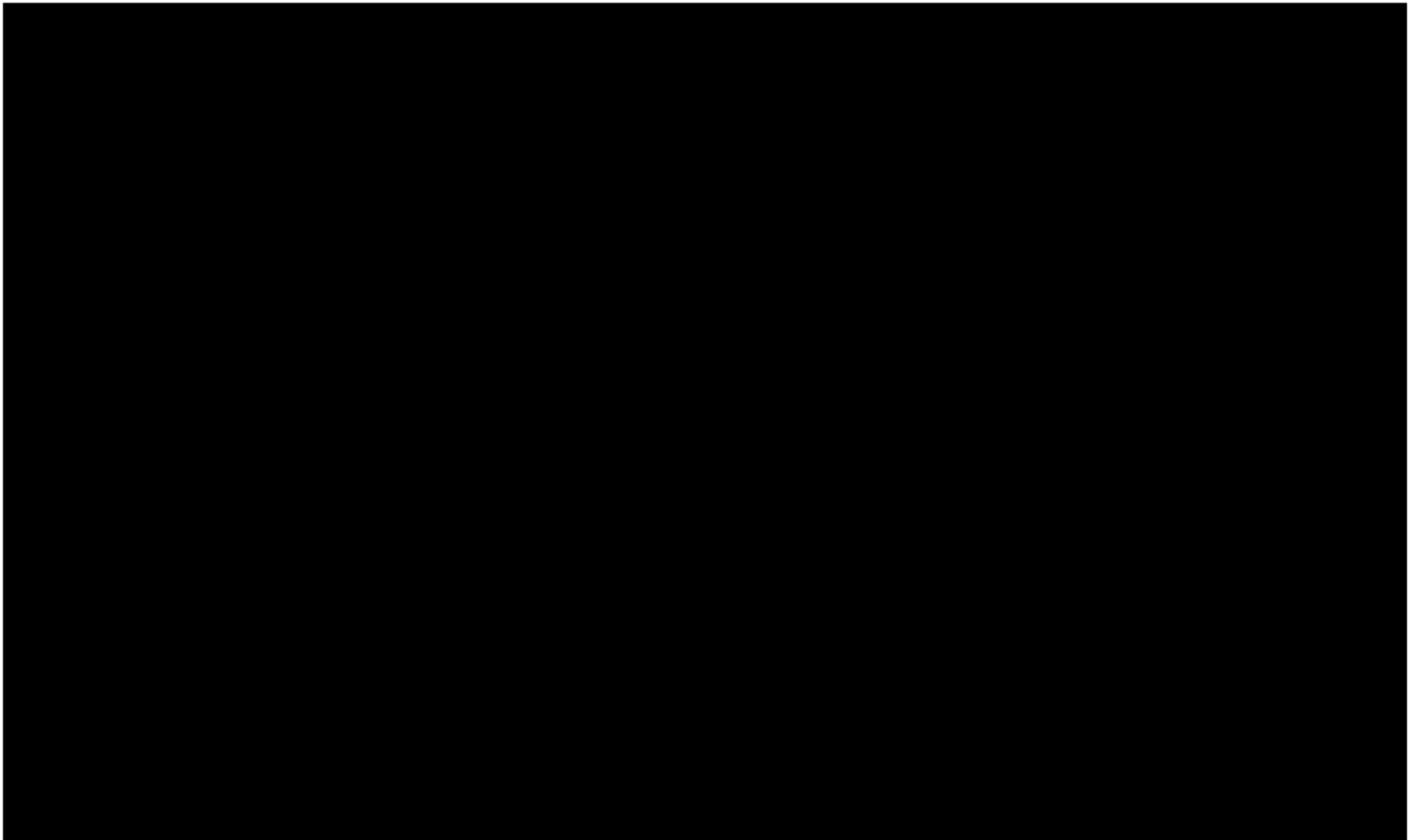
ミサゴ
(すべて希少種)



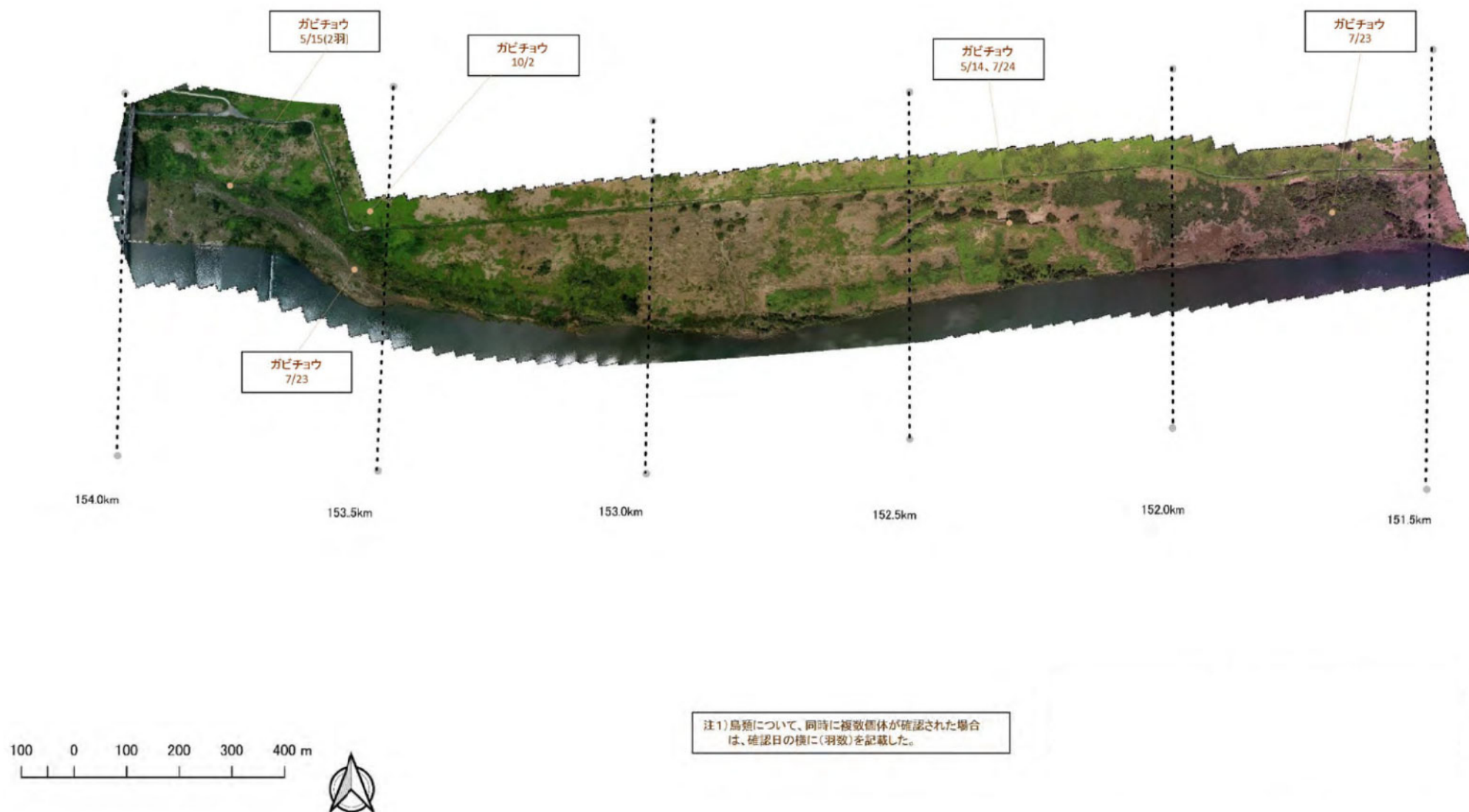
カイツブリ



希少種の確認位置



注目種の確認位置



外来種の確認位置

②R6年度・早春季()産卵状況)調査の結果

令和7年3月10日に調査を実施した結果、()の卵塊は()地区で()、()地区で()確認された。メンテナンス掘削を実施した直後の()は、4年ぶりに卵塊が確認されたが、そのほかの地点は()ともに、卵塊確認数は減少傾向が伺えた。

上流地区における()の卵塊確認数の推移

	年度								
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
()									

()内は孵化後の推定卵塊数

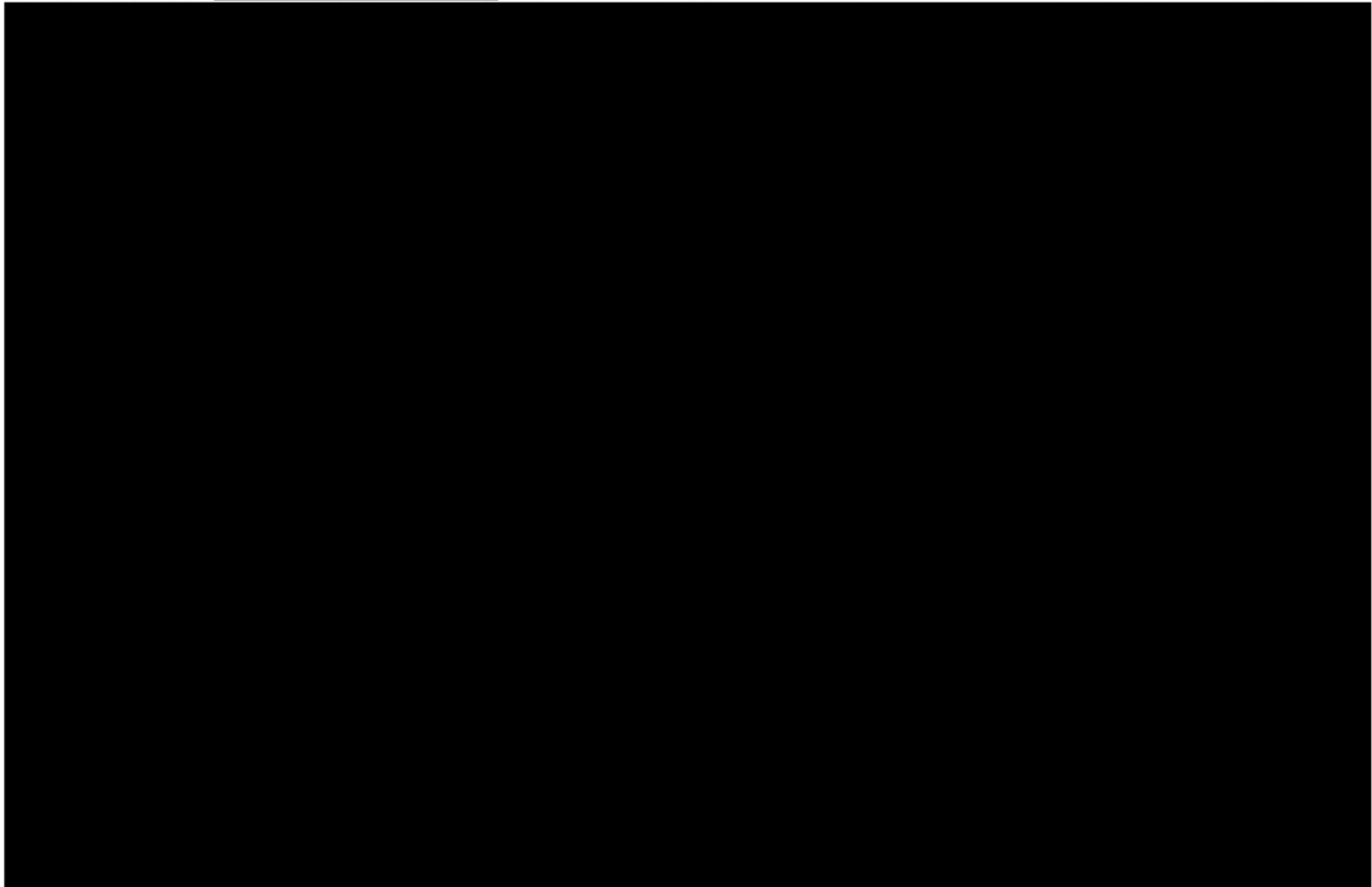
下流地区における()の卵塊確認数の推移

	年度								
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
()									

()内は孵化後の推定卵塊数

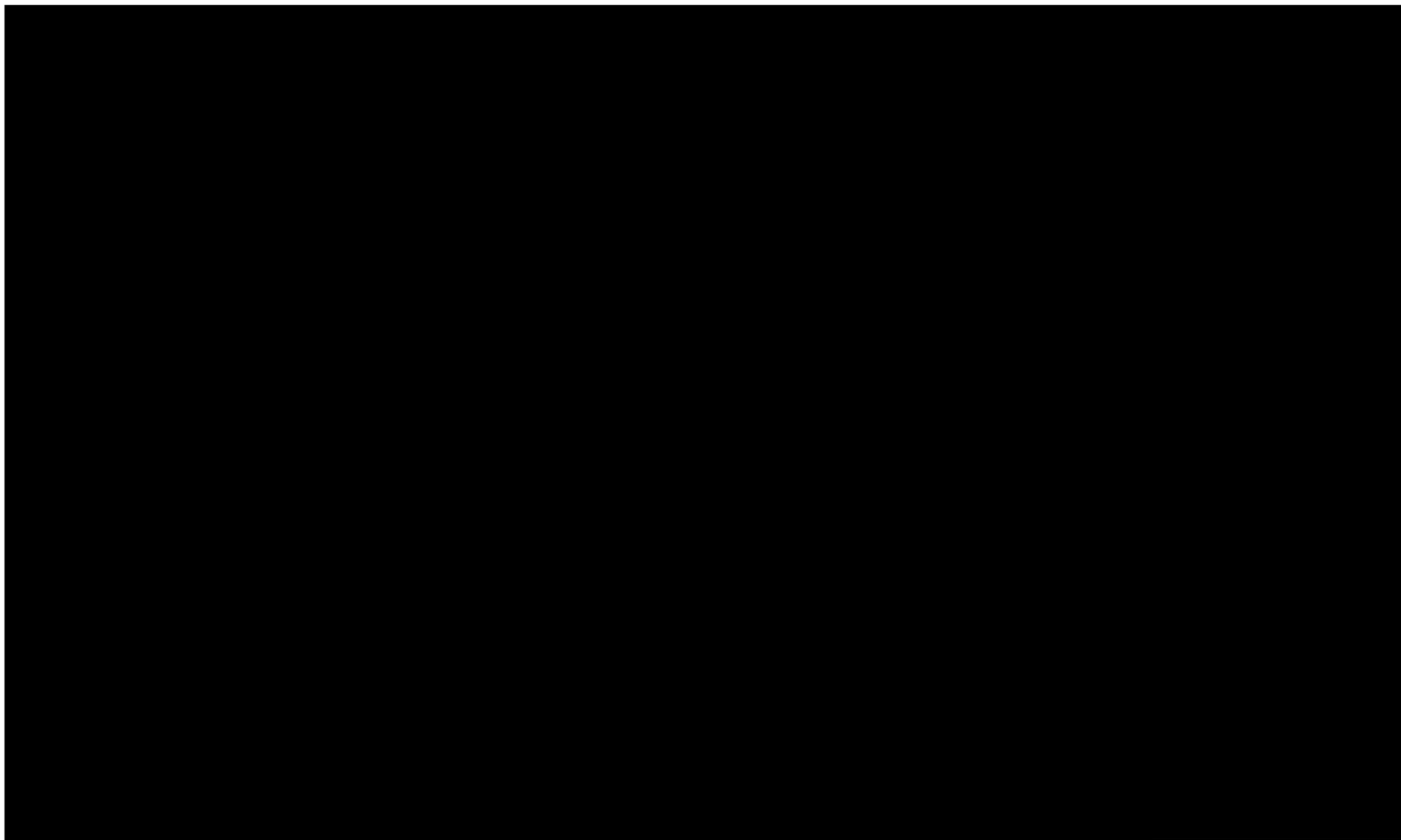
2024年度・早春季調査 <利根大堰上流>

※調査対象は、のみ

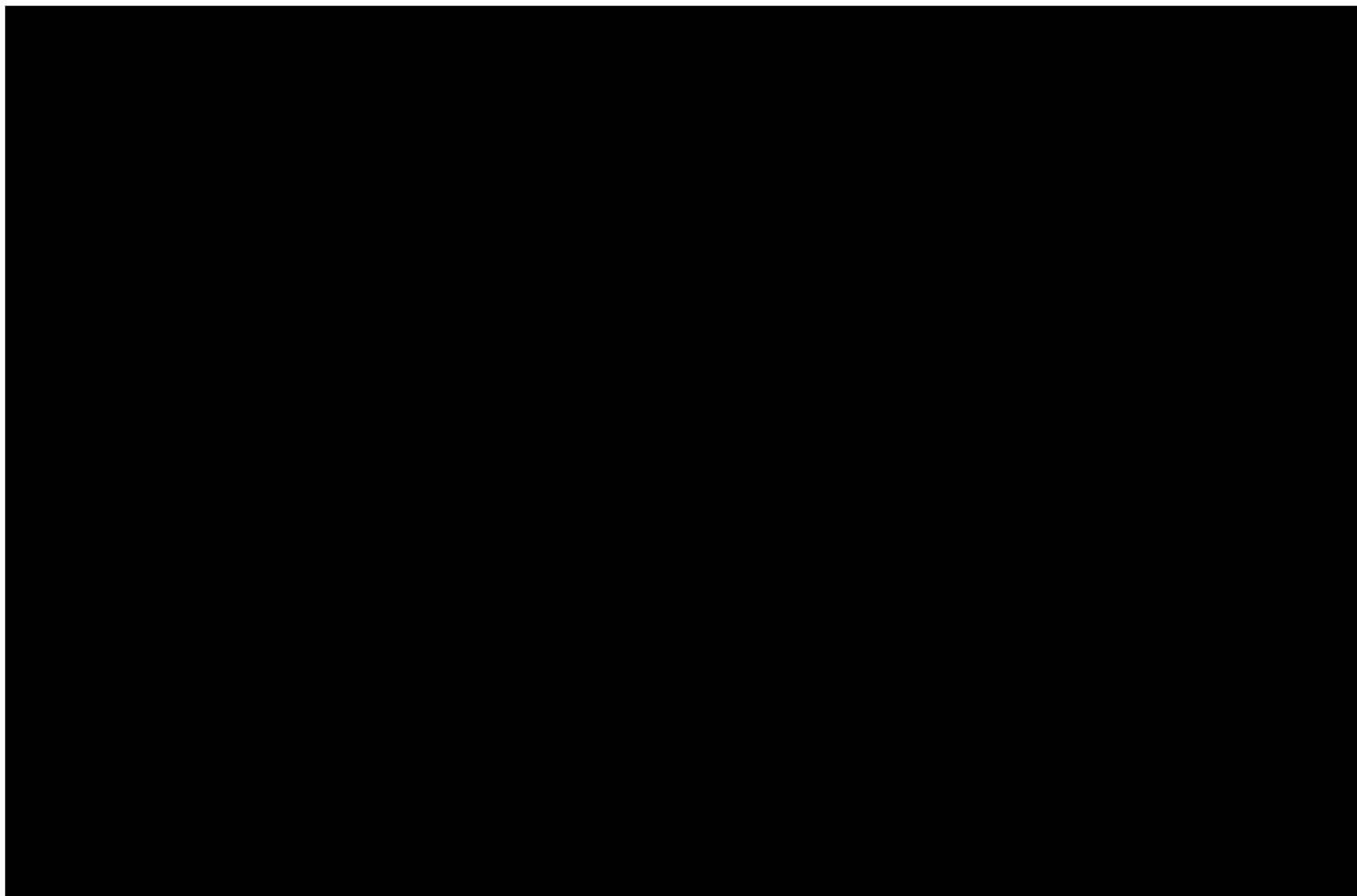


2024年度・早春季調査 <利根大堰下流>

※調査対象は、[REDACTED]のみ



※令和2年3月は、整備直後で周辺に植生が無い裸地状態であったが、卵塊は■■■確認され、以降は令和3年3月が■■■、令和4年3月及び令和5年3月、令和6年3月は■■■が続いた。今回・令和7年3月も整備直後で周辺に植生がない裸地状態であったが、水深20～40cmの地点で■■■の卵塊が確認された。



※令和5年3月は、■■■■及び■■■■に開放水面が全くなく、卵塊は確認されなかったものの、本川の水際部において本川とは切り離された水域で■■■■の卵塊が確認されていた。令和6年3月は、本川の水際部に浅い水域が形成されていたものの、本川とつながった水域であり、流れ込みや水面が波立つ等の影響からか卵塊は確認されず、■■■■とその周辺で■■■■が確認されていた。

の卵塊数減少の要因について

◆令和2年3月(2019年度)

最大の要因は、「令和元年東日本台風」に伴い利根大堰周辺も記録的な出水を受けた。出水により、広く高水敷が湛水し、の成体が流されるなどの影響があったものと考えられる。

◆令和7年3月(今年度)

関東他地域(千葉・埼玉県内)においての卵塊を調査している複数の団体より、「産卵に適した気温になるのが遅く、産卵ピークも遅れている」、「昨年末以降3月上旬までまとまった降雨が無く、産卵可能な湿地に開放水面が形成されていない」との報告があり、当該地域も同様の可能性が考えられた。

また、近年、アライグマの生活痕跡が増加していることから、アライグマの個体数増加により、の成体や産卵後の卵塊が捕食された可能性も否定できない。

※メンテナンス掘削を実施した「たまり池」において、整備直後から卵塊が確認されていることから、コウノトリの採餌環境を考慮に入れた掘削工事が予定されている「だるま池」においても、確認数の増加が期待される。

3. R7年度調査実施予定について

調査対象		令和7年度				
		春季	夏季	秋季	冬季	早春季
生物調査	①植生図作成			●		
	②鳥類	●	●	●	●	
	③哺乳類・両生類・爬虫類※1	●	●	●		
	④ [REDACTED] 卵塊					●※2
	⑤昆虫類	●	●			

※1:哺乳類・両生類・爬虫類に併せて、魚類・甲殻類等が確認された場合は補足的に記録。

指標種であるコウノトリの採餌環境把握については、今年度の補足的調査の結果を踏まえ、次年度以降、水生動物を調査対象とすることも検討。

※2:過年度は調査回数1回であったが、水資源機構による調査が終了するため、今年度以降は3回実施予定。